(C)十勝毎日新聞社

平昌つかめ スマイル４戦士

「スマイルジャパン」の愛称で呼ばれるアイスホッケー女子日本代表（世界ランク７位）が今年２月９～12日、苫小牧市で開催される2018年平昌（ピョンチャン・韓国）五輪最終予選グループＤでドイツ（８位）、オーストリア（11位）、フランス（12位）と１枚の出場切符を懸けて激突する。14年のソチ五輪（ロシア）に続いて２大会連続の出場を目指すスマイルジャパンには現在、十勝の選手４人もメンバー入りしている。アイスホッケーで十勝から初の五輪本大会出場に向けて選手たちは闘志と技術を磨き上げている。
（大野篤志、金野和彦、新井拓海）

アイスホッケー女子日本代表

「常に競争心を持っている」と積極的なプレーを繰り広げる武田莉奈

最長身 海外で武者修行

スンツヴァル（スウェーデン） DF 武田 莉奈（23）

昨年3月、海外でプレーすることを目的に中学生の時から10年間在籍してきたフルタイムシステム御影グレッズを退部した。

「体の大きな選手の体の使い方やプレーを学びたい」と、周囲の反対を押し切ってあえて厳しい道を選択。「代表での競争に負けない」という強い決意の表れだ。12月から単身乗り込んだスウェーデンの女子トップリーグのチーム「スンツヴァル」でプレーする。

清水町生まれ。松沢小、御影中、清水高出身。小学1年から御影少年団でアイスホッケーを始めた。高校2年でU-18代表となった。2012年の19歳からフル代表を務める。15年9月、日本オリンピック委員会が行っているトップアスリート就職支援ナビゲーション「アスナビ」を通じて岩田地崎工業（本社札幌）の社員となった。

171㌢と代表の中で最長身。フィジカルの強さとシュート力が持ち味だ。

14年のソチ五輪では事前合宿には呼ばれていたが、本戦出場はかなわなかった。「平昌では同じ悔しい思いをしたくない」と海外修行でテクニックとメンタルを一段と高める。

「今が一番状態がいい」と自信をみなぎらせる小野粧子

最年長 心技体は最高潮

FTS御影グレッズ FW 小野 粧子（35）

「20代の代表の頃より技術も体力も断然いい。ホッケー人生の中で今が一番充実している」。くりくりとした大きな目を輝かせる。

旭川市出身。日体大女子短大時代からコクドレディース（現SEIBUプリンセスラビッツ）でプレーし、1999年から代表入り。2002年ソルトレークシティー五輪から3大会連続で最終予選に出場したが、本戦出場には至らず。09年に元アイスホッケー選手の豊さん（42）と結婚し、清水町御影に移り住んだ。

代表からは身を引き、グレッズの強化を兼ねてプレーしてきたが、ソチ五輪で活躍した久保英恵らラビッツ時代の同僚に刺激を受け「もう一度日の丸を背負いたい」と代表復帰を決意。トレーニングに一段と励んだ。代表の中では最年長だが、経験とともにアグレッシブさや気持ちの強さは抜け出ている。「コンディションを高め、2月に結果を出す」と口元を引き締めた。

最年少ながら当たりの強さのプレーに安定感を見せる志賀葵

最年少 攻守で臆せずに

帯広レディース DF 志賀 葵（17）

帯広三条高2年生で、日本代表の中では最年少。U-18は帯広南町中3年時から代表入りし、フル代表も2015年から呼ばれている逸材だ。

U-18との兼任で、両方の合宿に参加するとともに、昨年12月はフル代表のチェコ遠征と帯広選抜として日光杯大会に出場。今年も年明け早々に7日からチェコでのU-18世界選手権トップディビジョン出場を控える。体の休まる暇はないが、「オフは何をしていいか分からない。ホッケーをしていたい」と苦にせず、〝ホッケー漬け〟を楽しんでいる。

帯広市生まれ。稲田小2年の時に広陽稲田少年団でアイスホッケーを始め、6年生時に清水御影に移籍。中学から帯広レディースでプレーする。妹の紅音（あかね）＝帯広三条高1年＝もU-18代表。

165㌢と長身で、当たり負けせず、相手のパックを奪い取る強さがある。冷静な判断力で攻撃につなげるパスセンスを身に付けており、自ら攻撃参加にも積極的。「ずっとオリンピック出場を夢見てきた。今、目の前の届くところまできた。自分のプレーをしていきたい」と意気込む。

スマイルジャパンの守護神に向け意欲的に練習に打ち込む近藤真衣

最後のとりで 正位置を

FTS御影グレッズ GK 近藤 真衣（24）

ソチ五輪を契機とした女子アイスホッケーの盛り上がりに「五輪が自分の目標であることを再確認することができた」と自分が大舞台でプレーする姿を頭に思い描く。ホッケーに専念できる環境を求めて、就職した会社を1年で辞したのはその意欲の表れ。チームスポンサーのフルタイムシステムの社員となり、現在、清水町アイスアリーナの指定管理者・NPO法人清水町アイスホッケー協会に派遣されている。

帯広市生まれで、光南小、帯三中、江陵高、帯広大谷短大卒。高校1年の時にU-18代表入りし、14年からフル代表。166㌢の長身を生かしてゴールにスペースを開けない堅守が持ち味。グレッズの細田秀夫監督は「最近はプレーに落ち着きが出て、ミスが減っている。自信を持ってプレーしてくれれば」とエールを送る。

代表GKは3人いるが、試合出場登録は2人になりそう。「一度パックを止めてから次の動きへの速さが課題。意識的にしている動きを無意識にできるようにしたい」とレベルアップで五輪出場枠を奪取するつもりだ。

■平昌五輪女子アイスホッケー

出場枠は８カ国。世界ランク１～５位のアメリカ、カナダ、フィンランド、ロシア、スウェーデンと開催国の韓国が出場決定。残り２カ国は最終予選のグループＣ＝スイス、チェコ、デンマーク、ノルウェーと、グループＤ＝日本、ドイツ、オーストリア、フランスの各１位が出場する。日本の五輪出場は1998年長野五輪（６位）、2014年ソチ五輪（８位）で、ともに未勝利で最下位だった。十勝出身選手では玉田陽子選手＝六花亭ペアーズ、釧路短大、白樺学園高出＝が日本代表として02年ソルトレークシティー五輪出場権を懸けた最終予選に挑んだが、出場はならなかった。